

GFVC協議会資料



北海道総合商事株式会社
HOKKAIDO CORPORATION

2016年6月22日

天間幸生

ロシア極東向け食品輸出に関するネック

食品農産物輸出

物流機能（リードタイム、物流コスト等）

北海道からの物流ルート、リードタイム別紙参照

保税区域内での冷蔵・冷凍設備

農産物（トマト）を輸出した際にウラジオストク空港に冷蔵設備なく、通関手続きで2日間放置された。

外貨管理規制からのパスポート取引（資金決済）

5万ドル以上の取引の場合、ロシアバイヤーは予め取引銀行に契約書を提出し、専用決済口座を開設する必要がある。

認証（適合申告書）

新規先への商品は適合申告書を作成する必要がありコストがかかる。

港（空港）によって通関手続きが統一されていない場合がある。

ロシア極東地域と北海道を結ぶ航路について



定期船・準定期船、航路

事業者	(株)商船三井・FESCO
船舶	VEGA DAVOS 7,464t
頻度	月2便
寄港地	ポストチヌイ⇒ウラジオストク⇒苫小牧⇒横浜⇒名古屋⇒ 神戸⇒門司⇒伏木⇒ポストチヌイ
備考	ウラジオストク⇒苫小牧間は2日間。 苫小牧⇒ポストチヌイは9～12日間。

事業者	NA VIS SHIPPING
船舶	CAMBODIA 及び PHNOM PENH 4,988t
頻度	月2便
寄港地	ウラジオストク⇒小樽⇒(伏木)⇒ウラジオストク ※伏木への寄港は不定期
備考	小樽⇒ウラジオストクは最短3日間。 RORO船だが、少量の貨物積載可能。

トランシップ航路

●釜山(韓国)経由でウラジオストクへの輸送可能

(1)「北海道-釜山」の定期航路

航路(韓国航路)	事業者 【道内代理店】	頻度
釜山-釜山新-石狩湾新-苫小牧-釜山 釜山-釜山新-苫小牧-石狩湾新-釜山	興亜海運(=HEUNG-A) 【日本通運】	週1便
釜山-釜山新-苫小牧-石狩湾新-釜山 釜山-釜山新-石狩湾新-苫小牧-釜山	高麗海運(=KMTC) 【ナラサキスタックス】	週1便
釜山-釜山新-苫小牧-(室蘭)-釜山 ※室蘭は隔週	高麗海運(=KMTC) 【ナラサキスタックス】	週1便
釜山-釜山新-苫小牧-直江津(新潟)-釜山	NYK Container Line 【ノーススタートランスポート】	週1便

※上記の他、中国を経由した「中国・韓国航路」もある。

(2)「ウラジオストク-釜山-ウラジオストク」の定期航路

航路名	事業者	頻度
Korea Soviet Direct Line	FESCO	週1便
MAERSK LINE	MAERSK	週1便
KMTC Line	Korea Marine Transport Co.,Ltd.	週1便

道産生鮮品のロシアバイヤー向け輸送試験結果

～北海道主催「ロシア極東への生鮮品輸出促進セミナー」資料より～

輸送品目・数量・ルート

所要日数

輸送後の状況

【第1回目の試験輸送】

品目	輸送重量 (kg)	船会社	NAVISSHIPPING
グリーンアスパラ	51.60	出港地	小樽
ホワイトアスパラ	51.60	トランジッブ港	—
タマネギ	462.00	到着地	ウラジオストク
ミニトマト	66.75	出港日	5月20日
レトルトコーン	247.50	到着日	5月23日
イチゴ	15.50	コンテナ	(リーファーコンテナ) 12ft
合計	894.95		

12日間

(当初予定:10日間)

【第2回目の試験輸送】

品目	輸送重量 (kg)	船会社	SINOKOR
トマト	74.50	出港地	苫小牧
枝豆	37.50	トランジッブ港	釜山
ブロッコリー	69.50	出港地	ウラジオストク
キャベツ	74.25	出港日	8月14日
ニンジン	438.00	到着日	8月21日
ピーマン	19.35	コンテナ	(リーファーコンテナ) 12ft
合計	713.10		

21日間

(当初予定:14日間)

【第3回目の試験輸送】

品目	輸送重量 (kg)	船会社	NAVISSHIPPING
リンゴ(レッドゴールド)	756	出港地	小樽
リンゴ(昂林)	665	トランジッブ港	—
リンゴ(ジョナゴールド)	665	到着地	ウラジオストク
リンゴ(弘前フジ)	665	出港日	11月20日
リンゴ(青 王林)	1,080	到着日	11月22日
合計	3,831	コンテナ	(リーファーコンテナ) 12ft

16日間

(当初予定:9日間)

【第4回目の試験輸送】

品目	輸送重量 (kg)	船会社	NAVISSHIPPING
タマネギ(大)	247.50	出港地	小樽
タマネギ(小)	273.00	トランジッブ港	—
赤タマネギ	400.75	到着地	ウラジオストク
ニンジン	434.25	出港日	11月20日
合計	1,356.00	到着日	11月22日
		コンテナ	(リーファーコンテナ) 12ft

エーラン社(ウラジオストク)

- 輸送品のうちイチゴ以外は6月5日の『北海道ショールーム』で展示。(集荷から22日後も鮮度は維持されていた)
- イチゴは通関通過後(集荷から12日後)にすぐ小売された。(小売時点での鮮度は維持されていた)

- 輸送品のうちトマトは通関後(集荷から21日後)の時点では劣化が進み廃棄された。
- トマト以外の商品は消費者からの評判もよく、完売したとのことであった。

- 第3回、第4回で輸送した商品は到着時点での鮮度は保持されており、販売に問題は無い状態だった。

利用された鮮度保持技術

～ステパック社製鮮度保持フィルム『Xtend(エクステンド)』～

【採用理由】

- 世界各地で輸出入に使用され実績があること。(ペルー産アスパラの日本への輸出に使用)
- 利用にあたっての設備や技術が不要。(予冷をしてフィルムで包装するだけ)
- フィルム1枚の単価が安価なため、商品価格への影響が少ない(フィルム1枚あたり100円程度)。

(出所)北海道主催「ロシア極東への生鮮品輸出促進セミナー」説明資料